

- 1 太陽の下に一つの邪悪があり、それは人の間に顕著である。
- 2 神が富を与え、実質、及び誉れを与えるある人がいる、そして彼は自分の全ての希望でも自分のたましいのためには何も望まない、しかし、神は彼に対してそれを食べる力を与えない、そのため見知らぬものがそれを食らう、これも空しく、邪悪な不足である。
- 3 もしある人が100人の子供を得て、長い年を生きても、そして彼の年月が長いとしても、しかしながら、彼の魂がよいことで満たされないなら、そして埋葬されないなら、私はいう、月足らずに生まれた子供のほうが彼よりよい。
- 4 何故なら彼は空しさの中に来て、闇の中で離れ、そして彼の名前は闇でおおわれるからである。
- 5 さらに彼は太陽を見ず、安息を知らない、彼にとり、他にはこれ以上の安息はない。
- 6 彼がたとえ1000年後の帰還まで生きたとしても、彼が何も善を見ないなら、全ては一つのところに行くのではないのか？
- 7 人の全ての働きは彼の口のためである、しかし食欲は満たされない。
- 8 愚か者に対して、賢いものに何の益があるのか、貧しいものでさえいのちの道にどう歩むべきかを知る。
- 9 目の視力は、魂でさまようものよりよい:これもまた空しい、霊の惑わしである。
- 10 もし何かが存在しているなら、その名前はすでに呼ばれている、そして人が何かは知られている、しかし彼が彼より強いものに対して戦っているかどうかは知られない。
- 11 多くの空しさを増すものがある、人に何か優位なことがあるか？
- 12 彼のむなしい数ある日の間、彼の命の中で、人にとり何が良いことなのか誰が知るのか？
そして彼はそれを影のように使う、太陽の下で、彼の後に何が起きるか誰が人に告げるのか？